

板垣退助 いわたけ げすけ 政治家。天保八年四月十七日土佐國生れ、大正八年七月十六日歿（八二七一一九九）。舊姓乾、諱正形、幼名椿之助。號源退助、無形。戊辰戰で總督府參謀とほり會津攻略の功を擧げる。維新後藩人參事、新政府の參議に任じた。征韓論に敗れ下野。明治七年愛國公黨を興じ、同志と共に「民權議院設け建白書」を提出。次で同志社を設けこゝを自由民權運動を展開、十四年自由黨總理、翌年刺客に襲はれ負傷、二十四年と憲法自由黨總理、のち内相と一度務め、二十二年政界引退。伯爵。

著書 『近世名家詩文』（合著・三宅虎太郎編、明治十年八月 文會堂發行、柳心堂）

『近世詩文・第一集』（合著・樺崎隆存編、明治十年十一月大阪・赤

田靜七出版）、『日本演説大家集（初編）』（合著・坂田哲太郎編、明

治十四年二月漸進堂）、と著『通俗無下政法論』（植木枝盛記述・和

田稻積編、明治十六年十一月繪入自由新聞社）、『明治論新編』（合

著・栗田紫一編、明治十七年二月樂成舎）、『板垣退助君高談集』（齋

藤和助編、明治十八年五月二十四日千葉・石井喜一出版、共々文社）、

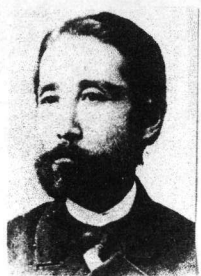
『名士の嗜好』（合著・中央新聞社編、明治二十二年一月二十一日文

武堂）、『我半生の奮闘』（合著・井上泰岳編、明治四十一年十一月

二十八日博文館）、『一代華族論』（明治四十五年六月十日社會政策

社）、『一代華族論（附録一代華族論是非）』（大正元年十一月二日

社會政策社）、遺著『この國の大本』（昭和七年四月六日緒言、高知・



板垣滔銅像 銅像 建設同志會）、『武士道觀』（昭和十

七年四月二十日高知・板垣會）等。

文獻、牧岡安二郎編『板垣退助公傳』南の海自由旗揚・第二

號』(内題「南海自由の旗揚・三の巻」明治十二年四月攝海社)、川
島正二編『通明治民権の花』(明治十四年二月五日明治出版社)、藤
田一郎著『時勢對話』(明治十五年四月二十八日福・並木鏡太郎編輯
出版。「贈板垣退助君書」収録)、栗原亮一著『自由黨』(總
理板垣退助君歐米漫
遊日記』(師岡國編、明治十七年八月師岡國出版、松井忠兵衛刊)、
中島市平著『板垣君近世紀聞』(別製、明治十九年十月金松堂)、流
鶯(谷口政徳)『大隈板垣兩君之傳』(内題「大隈板垣傳」明治二十
年一月一日文學事堂「近世豪傑傳」)、福地重孝著『板垣退助』(附編
二十六年十一月一日千葉・市川史談會)等。